

週 1 回の糖尿病の薬

院長 永井俊一

糖尿病の治療に必要なことだと頭ではわかっているけど、毎日薬をのんだり、注射したりするのはとても大変ですよ。昨年、週に 1 回のむだけですよ内服薬が発売されました。実はこれまであまりお勧めしてこなかったのですが、「週に 1 回だとのみ忘れが増えてしまうのではないかとか」、「週に 1 回で本当に安定して効果が現れるのだろうか」という疑念があったため、ちょっと様子見していました。1 年以上の使用実績が報告されるようになってきて、私の疑念は杞憂であることがわかりました。きちんと曜日を決めて内服するようにして、万が一のみ忘れた場合には気付いた時点で内服してかまわないことや、週に 1 回でも毎日のむのと同じ程度の効果があることが明らかになってきたため、使い始めることにしました。その薬はザファテックやマリゼブという DPP4 阻害薬というグループに属する薬で、グラクティブやスイニー、テネリアなどと同じような成分の薬です。腸に食物が運ばれてきた時にインスリンを分泌するように働くお薬なので、低血糖をおこす心配がなく、効果も非常に良いため、このグループの薬は現在日本で最も使われるようになっています。値段も月あたりの薬代に換算すると、週 1 回の薬の方が毎日のむ薬よりも若干安くなります。

また注射薬にも週に 1 回打てば良い薬があります。一昨年末に発売されたトルリシティという注射は、注射の手技も簡単で大変使いやすい注射剤です。インスリンではなく GLP1 受容体作動薬というグループに属する注射薬で、低血糖などの副作用が少ない注射ですが、インスリンを分泌する能力が保たれている人にしか使えないなど、使用するにあたって少し条件があります。この記事を読んで、使ってみたいと思った方は診察時にご相談ください。

【表紙の解説】

表紙のイラストは糖尿病の合併症を表したものです。糖尿病特有の合併症として、手足の先の方からしびれてくる神経障害（し）、眼底出血などの網膜症（め）、最初は尿に蛋白が出ることから始まり、ひどくなると透析が必要になる腎症（じ）があります。合併症のおこる順番は、し、め、じの順におこりやすいと言われています。

また、糖尿病は動脈硬化の大きな危険因子でもあります。血行障害のために足の先が黒くなって切断などに至る壊疽（え）、脳梗塞（の）、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患（き）など、命に関わる重大な病気をおこしやすくなってしまいます。

そのほか、最近ではがんや歯周病、認知症、骨折などの危険も高めることがわかってきており、糖尿病をしっかりコントロールすることはすごく大切なことです。

合併症は「しめじ」、「えのき」、「かまぼこ」と覚えてくださいね。